

## 2020 年度 IT 講習会に関する報告

大平 哲史<sup>†</sup>, 中村 修也<sup>†</sup>, 吉嶺 加奈子<sup>†</sup>, 槌屋 洋亮<sup>†</sup>, 丸山 広<sup>†</sup>

**抄録** 本報告は、青山学院大学における新入生の必修科目である情報スキル I の単位を取得するために履修する必要がある IT 講習会について、その概要について述べると共に 2020 年度の履修状況の提示および考察を行い、今後の課題について言及する。

**キーワード** IT 講習会、情報スキル I

## The report regarding IT Course of the fiscal year 2020

Tetsushi Ohdaira<sup>†</sup>, Shuya Nakamura<sup>†</sup>, Kanako Yoshimine<sup>†</sup>, Yosuke Tsuchiya<sup>†</sup>,  
Hiroshi Maruyama<sup>†</sup>

**Summary** This report describes the outline of IT Course that is necessary for freshman students of Aoyama Gakuin University to take it to earn a credit of the required subject, Computer Skill I, presents and discusses the course status of the fiscal year 2020, and mentions the issue in the future.

**Keywords** IT Course, Computer Skill I

### 1. はじめに

IT 講習会は、本学全学部の新入生に対して必修科目として位置付けられている情報スキル I 科目における単位取得のために履修する必要がある、情報メディアセンターが主体となって運営する講習会である[1]。情報スキル I 科目は、青山スタンダードの「情報と技能の領域」におけるコア科目であり、IT 講習会の運営においては青山スタンダード教育機構とも密接に連携している。本科目の特徴は、一般的な座学形式の講義と異なり、履修者自身が学習計画を立て、それに基づい

て IT 講習会スキルチェックシステムという CBT システムを活用しつつ段階を踏んで学び、問題点が生じればその都度さまざまな手段を用いて解決するという、いわゆる自学自習形式となっている点にある。自学自習は大学における基本的な学習形態であり、履修者は IT 講習会の履修を通して、日進月歩の情報技術 (IT) の変化に対応できる能力を身に付けることができ、さらに高校までの受動的な学習から大学における能動的な学習へとスムーズな転換を行うことができる。

IT 講習会の具体的な学習内容は以下の 3 点である。

<sup>†</sup> 青山学院大学附置情報メディアセンター

1. 情報モラル・ネチケット (入門編および実践編)
2. PC の基本操作
3. Office アプリケーションの使い方 (文書作成、表計算、プレゼンテーション)

インターネットの利用は日常的なものとなっているが、その一方で利用上のモラルやマナー (ネチケット) は幅広く浸透しておらず、とりわけインターネット上のソーシャルメディアでの不用意な発言により、トラブルに巻き込まれる事態が毎年のように発生している。さらに PC は社会生活における必須ツールとなっており、卒業後も様々な場面で PC に習熟していることが求められている。したがって、IT 講習会で課されるこうした内容を習得することにより、学生は大学を卒業した後に社会人として必要とされる IT の素養を身につけることができる。

そして履修者の自学自習をサポートするのが、教員ではなく IT 講習会補助員 (以下 IT-A) と呼ばれる学生アシスタントであることも IT 講習会の大きな特徴である。IT-A は IT 講習会を修了した学生の中で、書類選考および面接選考に合格後、研修を受けた特に優秀な者で構成され、履修者が陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、教えることを通じて IT-A 自身も成長できるという好循環が生まれている。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、4 月から 2 か月半にわたり IT 講習会を開講できない状況が続いた。この間、情報メディアセンターと教務課との間で協議を重ね、6 月中旬から感染防止対策を徹底したうえで、2, 3, 4 時限定で IT 講習会を開講すること、8 月初めまでの前期中は、IT 講習会修了が卒業や進級にかかわる学生のみを対象とし、後期はすべての学生を対象とするものの、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、必ずしも 1 年時に修了する必要はない旨を教務課より周知すると共に、受講する学生を曜日ごとに学部別で限定し、さらに自宅でも学習できるように、IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画を本学の LMS である CoursePower 上で提供する対応をとった。

本報告書では、以下最初に新型コロナウイルス感染防止対策について記し、青山キャンパス・相模原キャンパスの 2020 年度 IT 講習会履修状況を報告し、考察を述べ、そして 2017 年度より運用開始した IT-A が履修者から受けた質問を記録している Web ベースの質問記録システムに記録された質問内容について述べ、最後に今後の課題について言及する。なお、例年では履修状況の報告は前年度の比較で述べているが、今年度は先述の通り毎日履修者数を限定した中での開講となったため、前年度との比較は行わず、今年度のデータのみに基づく記述とする。

## 2. 新型コロナウイルス感染防止対策

まず、IT-A には、勤務時に必ずマスクを着用するよう義務付け、不織布、布製いずれも可とした。受講する学生にもマスクの着用を義務付け、IT 講習会開講時間帯は窓を開けるよう指示した。マスクの着用に加え、IT-A 一人ずつにフェイスガード (図 2-1) を支給し、特に近距離で説明をする際に使用するよう指示した。



図 2-1 IT-A が使用するフェイスガード

スキルチェック受検教室は全て開放し、受講する学生を離れて着席させるように IT-A に指示し、着席させない PC はシャットダウンした上で「利用不可」の掲示を行った (着席可能数: 50%程度)。自学自習教室についても同じように着席可能数を 50%程度とした。スキルチェック受検教室、自学自習教室に消毒液とウ

ェットティッシュを設置し、IT-A に手指消毒をさせると共に、受講する学生に対しても同様に消毒するようIT-A に指示させた。

一方 IT-A が勤務時間の合間に利用する控室については、青山キャンパスでは前期は使用中止とし、後期はサーキュレーターを設置等新型コロナウイルス感染防止対策をとって使用した。相模原キャンパスでは手荷物置き場として新たに部屋の一角を確保し、昼食時の休憩スペースについても用意した。

感染防止対策の一環として、IT-A が共用してきた物品は基本的に使用中止とし、IT-A と受講する学生との間で受検票を直接手渡しせず済むよう、名刺ボックス(図 2-2)を使用して、必要なものはすべてこの中に入れるようにした。名刺ボックスの中に入れるものは、受検する学生が記入する受検票、記入済みの受検票、記入済みの受検票に IT-A が受検の記録として押印する確認印のみとした。確認印はアルコール消毒液で湿らせたティッシュで使用前・使用後に拭うように指導した。不正受検対策として導入したスマホポーチの使用は中止し、代わりにスキルチェック教室入室時にスマホ電源オフを徹底させることとした。

以上の通り万全の対策をとったうえで、6月中旬より IT 講習会を開講した。

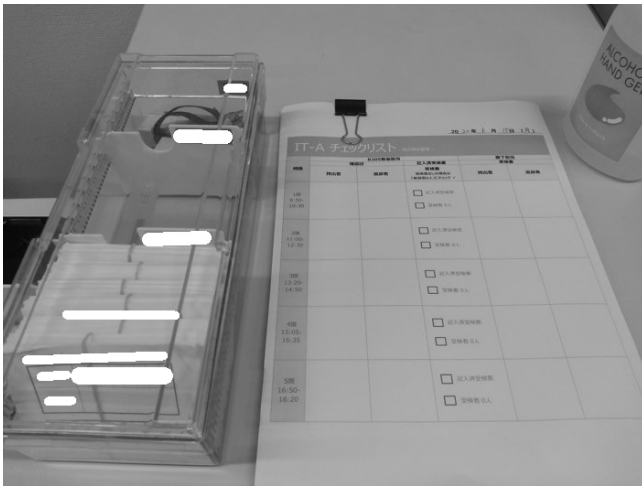


図 2-2 受検票回収用名刺ボックス

### 3. 青山キャンパス IT 講習会報告

青山キャンパスの学年別合格率推移を図 3-1 に示す。

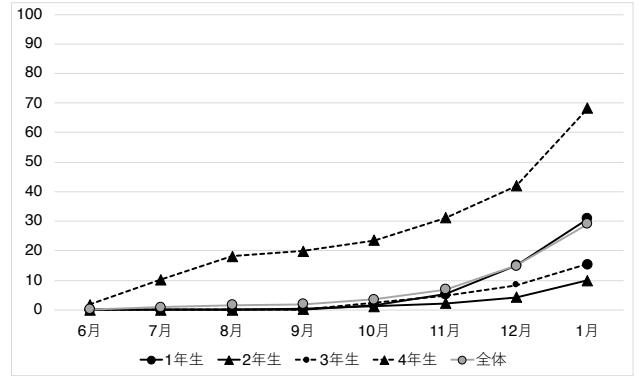


図 3-1 青山キャンパス 1~4 年生合格率 (%) 時系列推移

2020 年度の履修者数は 1 年生が 3257 人、2 年生が 888 人、3 年生が 418 人、4 年生が 437 人、合計 5000 人であった。最終的な合格率は、1 年生については 30.8%、2 年生については 10%、3 年生については 15.6%、4 年生については 68.2%であった。全体では、29.1%の修了率であった。4 年生だけが受検が認められた 6~8 月での修了率は 18.1%であった。

今年度は、必ずしも 1 年次に修了する必要はない旨周知した中での合格率であるため、例年の半分以下となってしまうことはやむを得ないと言える。

続いて、青山キャンパス学科別最終合格率を図 3-2 に示す。

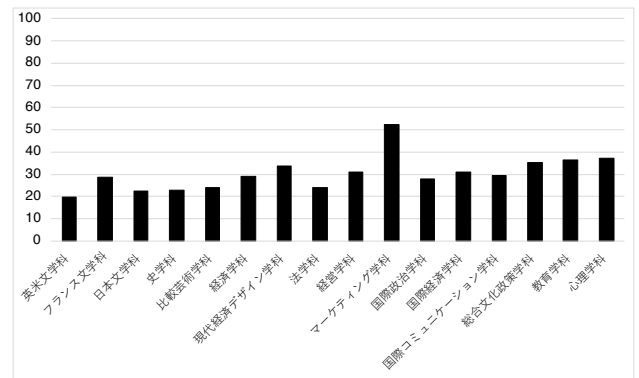


図 3-2 青山キャンパス学科別最終合格率 (%)

学科別にみると、おおむね 20~35%程度の合格率の中、マーケティング学科の合格率が 52.4%と高いことがわかる。この理由として、キャンパスでの対面授業時限のタイミングや、学科内での履修に関するお知らせ状況の影響などが挙げられる。

続いて、各科目の合格者の時系列推移を図 3-3 に示

す。

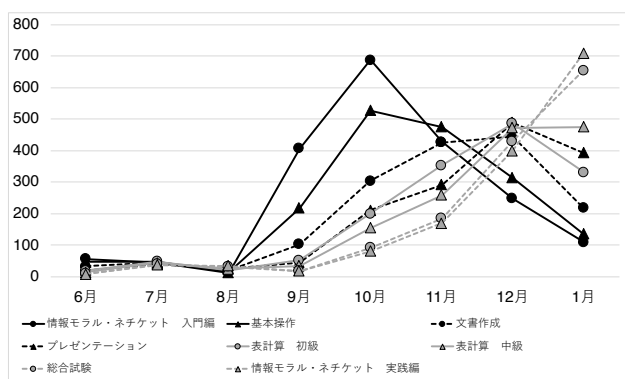


図 3-3 青山キャンパス各科目の合格者の時系列推移

今年度は9月中旬の後期から実施された影響で、受験する最初の科目である「情報モラル・ネチケッ 入門編」の合格者が9～11月に集中していることがわかる。これに対して、最後に受験する科目である「総合試験」と「情報モラル・ネチケッ 実践編」は9月以降指数的に合格者が伸びていることがわかる。受験できる座席の制限など、受験が一部制限された状況下でも順次合格をしていった様子が見て取れる。

続いて、図 3-4 に、受験開始から修了までに要した日数別人数を示す。例年であれば、前期にいったん着手したものの、夏季休暇を挟んで後期に修了する学生が多いが、後期からの受験対象となった学生が多いことから、短期間での受験修了状況が見て取れる。最も多い修了が多い日数は61～80日で296人である一方で、20日以下、21～40日、41～60日での修了者数も大きな差はないことがわかる。

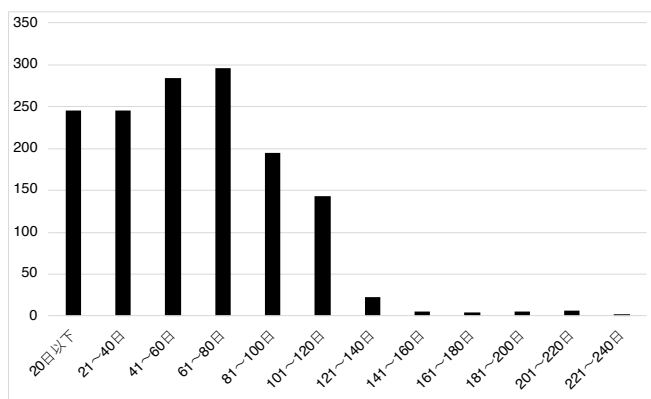


図 3-4 受験開始から修了までに要した日数別人数 (青山キャンパス)

最後に、図 3-5 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、最も多かった質問の上位 10 項目を月別に累積したグラフで示す。

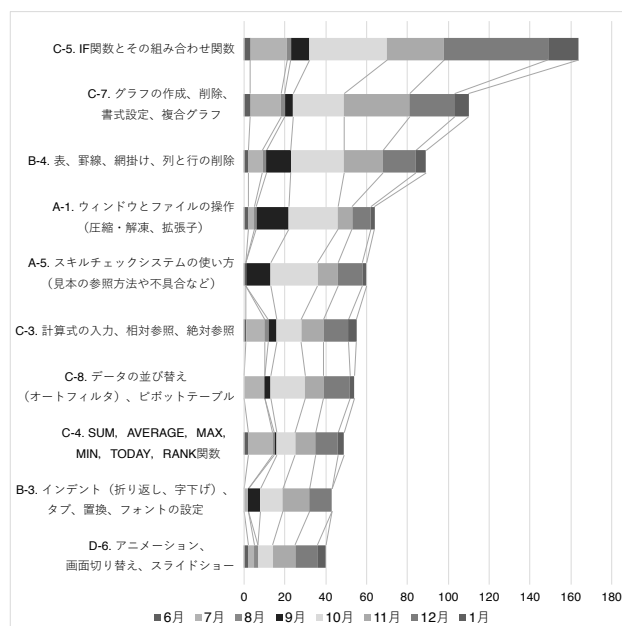


図 3-5 青山キャンパス IT-A 質問数 上位 10 項目 (月別累積数)

上位 10 項目のうち 5 項目が表計算に関する質問であり、また、全体の質問数で見ても半分程度が表計算に関する質問であることから、表計算は特に履修生がつまづきやすい科目と考えられる。時期で見ると、表計算の合格者が最も多い 12 月に、表計算に関する質問が多いことが見て取れる。また後期の受験が始まった 9 月には「ウィンドウとファイル操作」や「スキルチェックシステムの使い方」など、基本的な操作やスキルチェック自体に関する質問が多いことがわかる。これらのことから、表計算に関するサポートを充実させることと、時期を元に、受験・合格者が多い科目を重点的に支援することが重要と考えられる。

#### 4. 相模原キャンパス IT 講習会報告

まず、相模原キャンパスの学年別合格率推移を、図 4-1 から図 4-4 に示す。また、相模原キャンパス学科別最終合格率 (各学科 1～3 年生の合計) を図 4-5 に示す。2020 年度の履修者数は 1 年生が 1288 人、2 年生が 133 人、3 年生が 101 人、4 年生が 35 人であっ

た。最終的な合格率は、1年生については37.3%、2年生については15.8%、3年生については27.7%であった。先述の通り、必ずしも1年次に修了する必要はない旨周知した中での合格率であるため、例年の半分以下となってしまったことはやむを得ないと言える。一方で4年生は88.6%であり、昨年度と比較して10%程度上昇している。なお、4年生はすべて地球社会共生学部の学生である。例年より早い時期にIT講習会に取り組み、短期間で終了した学生が多くなったことが原因と考えられる。加えて情報メディアセンターのIT講習会担当教員と、地球社会共生学部の情報スキルI科目担当教員が緊密に連携し、履修者に早期の修了を積極的に促したことも功を奏したようである。学科別にみると、理工学部ではおおむね20~30%程度の合格率の中、経営システム工学科の合格率が高いことが目につく。理工学部以外の3学部についても、理工学部と比較すると合格率は高く、特に地球社会共生学部の合格率が高くなっている。実際にIT講習会を運営していた我々の印象とこの結果はほぼ一致しており、理工学部以外の学生が受講できる曜日の方が、総じて受講する学生数が多かった。理工学部ではほぼすべての科目がオンラインとなっていた一方、理工学部以外の学部では、数は少ないながらもキャンパスで受講する科目が存在しており、そうした点が理工学部以外の学部について合格率を向上させる要因となったものと考えられる。

しかしながら、例年では地球社会共生学部を除き、各学科の合格率は70~90%に達するため、2021年度は60~70%の学生が再びIT講習会を受講することになる。特に理工学部と社会情報学部では情報スキルI科目の単位取得が4年次進級要件になっており、同学部の3年生について前期からのIT講習会受講を可能とした。それにもかかわらず、3年次の合格率が理工学部で20.4%、社会情報学部で33.3%と低い水準にとどまった。後期の12月前半から自学自習室およびスキルチェック教室にIT講習会スケジュールの掲載に加えて終了日を目立つように掲示していたが、とりわけ1年次に修了できなかつた理工学部・社会情報学部

学生への更なるケアが必要である。また、先述の通り教室内での新型コロナウイルス感染防止対策には十分に配慮してきたものの、今年度の青山キャンパスの状況を見れば、相模原キャンパスにおいても教室外、すなわち学生がIT講習会スキルチェックを受検するために列をなして並ぶことに対する対策を講じる必要がある。

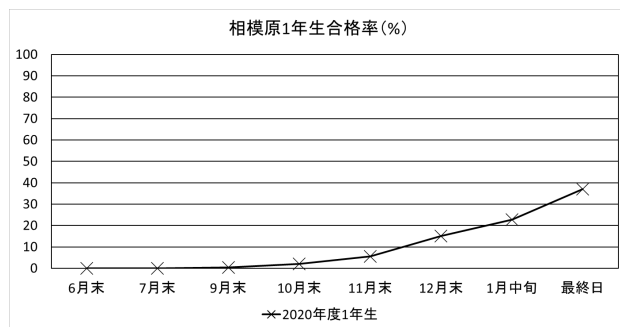


図 4-1 相模原キャンパス 1 年生合格率(%)時系列推移

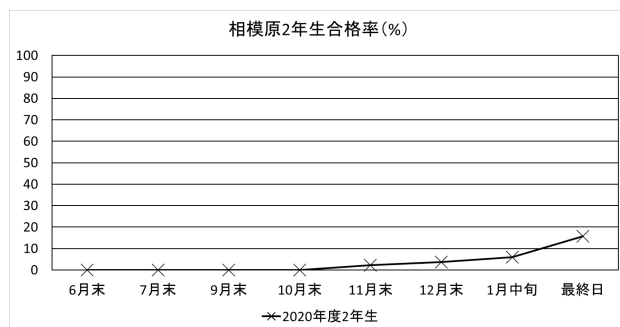


図 4-2 相模原キャンパス 2 年生合格率(%)時系列推移

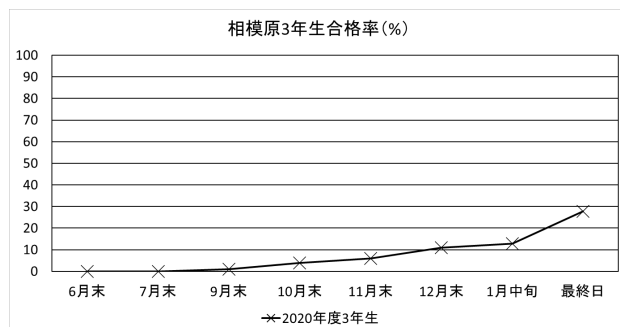


図 4-3 相模原キャンパス 3 年生合格率(%)時系列推移

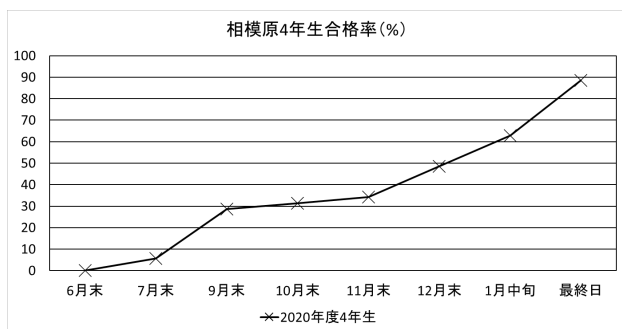


図 4-4 相模原キャンパス 4 年生合格率 (%) 時系列推移

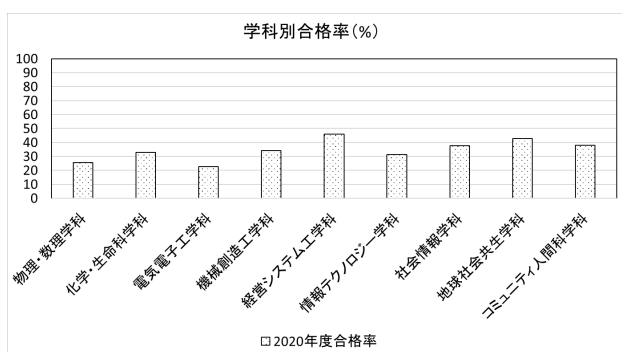


図 4-5 相模原キャンパス学科別最終合格率 (%)、各学科 1~3 年生を合計)

図 4-6 に、受検開始者数と修了者数の推移を示す。6 月中旬の前期開講となったが、前期は地球社会共生学部の 4 年生と理工学部・社会情報学部の 3 年生のみを対象としていた。そのため前期中 8 月初めまでの修了者は 20 名に満たない。後期に入って曜日ごとに受講できる学生を学部別で限定する中で、全学生を対象に IT 講習会を開講したことで大きく受検開始者数が伸びている。最終的に受検開始したにもかかわらず修了できなかった学生は 166 名で、例年とあまり変わらない数字ではあるが、今年度はできるだけこの数字を縮小させ、2021 年度以降に再び受講する学生数を減らしたいところであった。

図 4-7 に、受検開始から修了までに要した日数別人数を示す。例年であれば、前期にいったん着手したものの、夏季休暇を挟んで後期に修了する学生が多いが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、多くの学生が短期間で修了を試みたことがうかがえる。IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画を本学

の LMS である CoursePower 上で提供したことで、キャンパスに来ることなく学習を進めることができた結果、キャンパスでは IT 講習会スキルチェックのみ受検したという学生も多く、ピークは 61~80 日であるが、21~40 日、41~60 日で修了した学生もかなり多い。やはり解説動画の提供はキャンパスで受講する学生と IT-A とが接する機会を減少させることに貢献しており、2021 年度についても同様の対応を行いたい。特に理工学部について、2021 年度は再びキャンパスで実験・実習系の授業が行われる予定であり、それに伴って自学自習の時間を十分に確保することが困難な学生が増え、早めに着手したとしても修了時期が遅くなるケースが 2019 年度以前のように起こりうるため、そうした学生にとっても解説動画の提供はプラスになるものと考えられる。

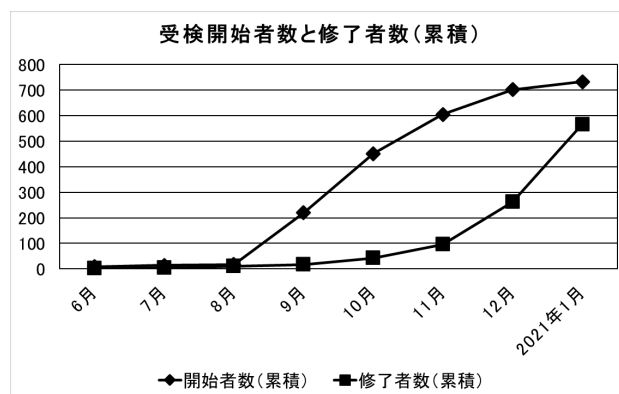


図 4-6 受検開始者数と修了者数の時系列推移(相模原キャンパス)

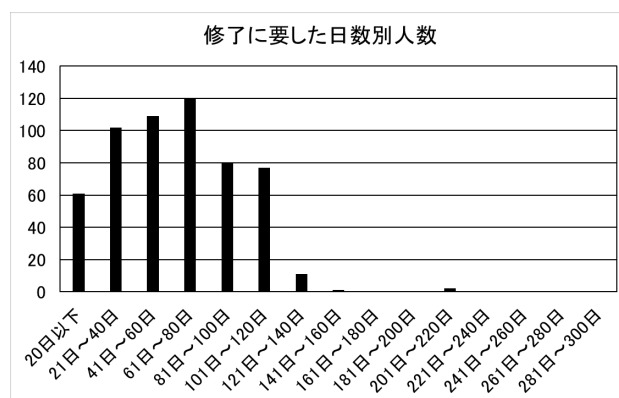


図 4-7 受検開始から修了までに要した日数別人数(相模原キャンパス)

図 4-8、4-9 に、Web ベースの質問記録システムを

利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、IT 講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す。前期については、先述の通り地球社会共生学部 of 4 年生と理工学部・社会情報学部の 3 年生のみを対象としていたため、質問数は極めて少なく、最大でも 1 週間で 16 件であった。後期に入って曜日ごとに受講できる学生を学部別に限定して全学生を対象に IT 講習会を開講したことにより質問数は大きく増加している。しかしながら、例年であればピーク時の 1 週間の質問数は 200 件を超えており、今年度はその 6 割程度の質問数となっている。質問内容としては総じて表計算にかかわるものが多く、やはり問題によっては解説動画を視聴したとしても理解が難しかったものと思われる。その他の質問項目はほぼ IT 講習会修了証の発行に関するものであり、多くの学生がコロナ禍の中で IT 講習会に取り組み修了した証として、例年よりも多く修了証を発行したことがうかがえる。

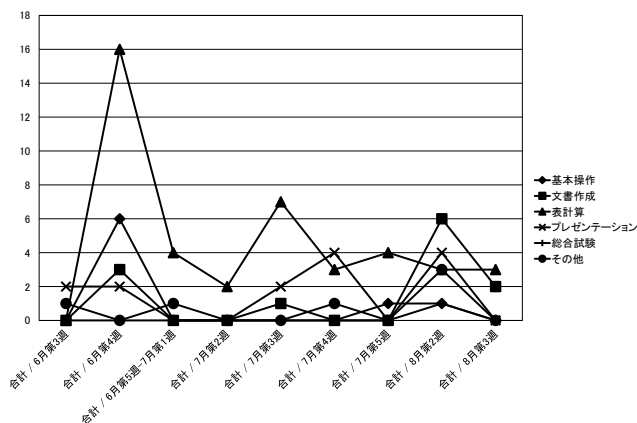


図 4-8 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス前期)

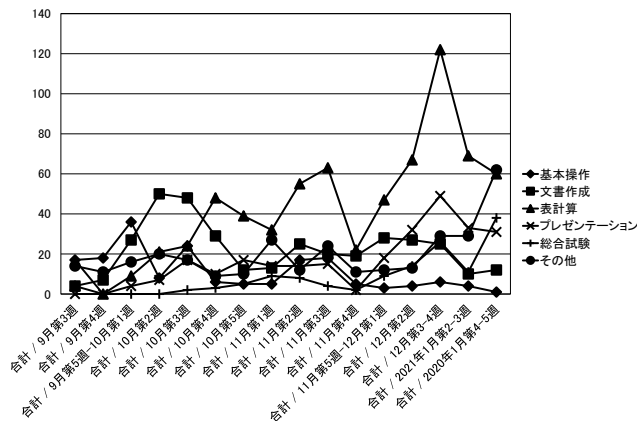


図 4-9 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス後期)

## 5. おわりに

IT 講習会は、自学自習形式という特殊性ゆえに、過年度生をはじめとして上手く馴染むことができない一部の学生を生んでいることも事実であるが、2014～2019 年度と同様[1]、2020 年度はこうした学生に対し、情報メディアセンターの IT 講習会担当教員により、授業支援システム CoursePower を利用して細やかなメンタリングを行っただけでなく、各学部の教務課と学生の履修状況を共有し、とりわけ再履修クラスの学生についてその進捗のケアを行い、相模原キャンパスにおいては、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員と緊密に連携し、同学部の 4 年生の履修進捗状況に注意を払い、無事単位取得へと導くことができた。

2021 年度についても、各学部の情報スキル I 科目担当教員および教務主任の教員と必要に応じて緊密に連携し、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底すると共に、各学部からの提案にも真摯に耳を傾け、より合格率を向上させるよう努力していく所存である。

## 参考文献

[1] 大平哲史, 内田瑛, 槌屋洋亮, 丸山広: “2019 年度 IT 講習会に関する報告”, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol. 47, No. 1, pp.72-80, 2019.